

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 6月は環境月間
はじめよう！地球環境にやさしい生活
- 6 財政状況の公表
- 8 税の減免・控除についてのお知らせ
- 10 国保税の納税通知書を発送します
- 11 税は納期限までに納めてください
医療機関窓口などで証明書の提示が必要になります
- 12 農業者戸別所得補償制度
- 13 チャレンジデー 2011 の結果
- 14 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPOの輪
- 20 子そだて広場
わが家のアイドル
- 21 地域安全情報
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く
夢トーク
- 23 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 24 くらしの情報
- 28 奥州遺産

〈今月の表紙〉



5月14日から29日にかけて、市内の小中学校で運動会が開催されました。

写真は、21日に行われた胆沢第一小学校（渡辺唱光校長・児童数414人）運動会の徒競走の1シーン。天候に不安がありましたが、子どもたちは晴れの舞台に臨み、終始楽しそうな笑顔を見せていました。応援席の保護者らからは、子どもたちの一挙手一投足に、大きな歓声が挙がっていました。



愛車を前に奥州RacingTeamメンバーと共に（左から3番目が秀明さん）

隅々まで手入れの行き届いた自慢のマシンを前に、ひときわ優しい表情を浮かべる奥州RacingTeam監督の千田秀明さんは、昭和40年胆沢区南都田に生まれた。小・中学校時代は、野球やバスケットボール、無縁に熱中。「自転車に無線機とバッテリーを積み、交信していた。携帯電話のはしりだね」と少年のような笑みを浮かべる。

一関高専に進み免許が取れる年齢になると、自然とバイクに興味を湧いた。元来、機械いじりが好きだった秀明さんは、一気にのめり込んでいく。「ガソリンの供給、圧縮、爆発と。手を汚しただけ、バイクは応えてくれる」とその魅力に目を輝かせる。20年来の相棒カワサキ『忍者（バイ

ク名）』は、自らが改造し仕上げた傑作。ほかのバイクは考えられないと語る秀明さん。高専時代から続けるレース活動。平成20年、顔なじみだった市近郊のメンバー11人で奥州RTを結成、市販車ノーマルクラスと同改造クラスに参戦する。「雪国から世界に通用するライダーを育てたい」と黒子に徹する秀明さんに、メンバーは絶大な信頼を寄せる。

必要な装備を付け、ルールを守ればレースは安全。楽しさを知ってほしいと底辺の拡大に向け、50ccレースも主催する。「バイクは日常生活に必要なものではないけれど、好きな人がいれば一緒に何かしたい」と、秀明さんの夢はまだまだ続く。



9

世界に通用する ライダーの誕生を夢見て

千田 秀明さん（45歳）
胆沢区南都田字駒木



ちだ・ひであき◎昭和40年胆沢区南都田字駒木生まれ。東京エレクトロン東北勤務。奥州RacingTeam監督、忍者会東北支部長。